

C R T 栃木放送ラジオ番組「開倫塾の時間」25周年を迎えて

— 25年間ラジオで訴え続けてきたこととは —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：毎週土曜日の午前9時15分から約10分間の番組で、25年間もの間、何をお話しているのですか。

A：(林明夫、以下省略) 社会人も含めて、どのようにしたら効果の上がる方法で勉強ができるのか、勉強の仕方が身に付くのかをお話しています。

これに加えて、私が様々な場所に出掛けて学ばせていただいたことや考えたこともお話していますので、「林明夫の歩きながら考える」というサブテーマ(副題)もついています。

Q：「勉強の仕方」はそんなに大事なのですか。

A：はい。学力の高い人には2つの条件があります。読書による思慮深さを身に付けていることが第一です。読書には新聞も含まれると私は考えます。新聞をじっくりよく読むと、自分で考える力、批判的思考能力が身に付くと私は考えるからです。

学び方を学ぶ能力を身に付けていることが第二です。特に、一度「理解」したことを、「定着」つまり「身に付ける」能力を備えた人は学力が高いと私は考えます。

Q：例の「学習の3段階理論」ですね。

A：その通りです。私は25年間、「理解」→「定着」→「応用」の「学習の3段階理論」を毎週、毎週マイクを通して訴えてきたと言ってよいと思います。それは、「学習の3段階理論」を参考にして、自分なりの勉強の仕方を一日も早く身に付けてもらいたいと考えているからです。

Q：「勉強の仕方」を身に付けることは、そんなに大切ですか。

A：はい。現代は知識が基盤となった「知識基盤社会」です。グローバル化が進み、世界中の方々と一緒に活動することも求められます。学校を卒業してから、自分の力で「理解」し、「定着」つまり身に付け、使いこなさなくてはならないことが山ほど出てきます。

勉強し続けることが死ぬまで求められるのが現代と言えます。ですから、何かを勉強する度に、どのように勉強したらよいかわからないと嘆いてばかりはいられません。自分なりの勉強の仕方を身に付けなければ学力も身に付かないし、必要なこともできないで、困り果てることが多いのが現代だからです。

Q：「勉強の仕方」を身に付けて学力が身に付くと、何かよいことがありますか。

A：よいことという表現は合わないかもしれませんが、学力の高さは、人生の選択肢が増えること、つまり多様な選択肢のある人生を送ることに繋がると思います。

学力が高く学校の成績がよければ、上の学校に進学するときに奨学金の給付や貸与が受けられます。模試の偏差値が高ければ、合格可能な学校が増えます。学力が高ければ、学校の勉強もよくわかるし、難しい仕事も自分の力ですることができます。語学が身に付いていれば、外国に一人で行き、そこで活動することもできます。

自分の潜在能力、自分に備わっている能力を大きく伸ばすことができるのも学力です。人生を成功に導くのも学力と言えます。

Q：学力がすべてなのですか。

A：いいえ、違います。いろいろな人々の生き方や考え方をそのまま認めることのできる「寛容(かんよう)」な心や、自分がされて嫌だったことをみんなにしない「思いやり」の心を持つことは大事なことです。

みんなと仲良くするのも能力です。また、ルールの中でプレイをするのも、自分の行動を自分で律するのも大切な能力です。このように、学力以外にも様々な人間としての大切な能力があります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：毎回の放送終了後、放送内容の速記録に少しだけ手を加え、開倫塾のホームページの中にある林明夫のコーナーで公開しています。参考になることがあるかもしれませんので、是非ご覧下さい。

5年後の30周年に向けてがんばります。

－ 2011年1月24日記－